

第二講義 「コミュニケーション基盤の充実は学習環境の充実」

講師 杉本光司氏

(都留文科大学地域交流研究センター長・情報センター教授)

1 自己紹介

都留市役所に就職後、都留文科大学へ異動。大学では大学の情報化に着手した。このころホームページの黎明期であったが、大学のインターネットへの接続、ホームページの作成、およびホームページ上での合格発表など、インターネットによる大学の情報発信を全国に先がけておこなった。特にホームページ上での合格発表は全国の大学で2番目に早かった。その後、都留文科大学の教員となり、教員となってからは ICT を使った遠隔教育等を研究している。

2 都留文科大学の特徴

都留文科大学は、東京から少し離れた山梨県都留市にあり、キャンパスは周りを自然に囲まれている。都道府県別入学者数（平成 19 年度～平成 22 年度）を見ると、山梨県内からの入学生は多くない。ほぼ 47 都道府県全てから入学している。特に北海道、岩手県、福島県など東北地方からの入学者が多い。

このように全国から大学生が集まってきていることにより、都留文科大学では異なった地域から来た学生間のコミュニケーションが盛んである。例えば沖縄県出身の学生達は、沖縄県人会を作り学園祭において沖縄のお菓子や踊りなどを披露している。

本講義では、このような都留文科大学の特徴を踏まえて、コミュニケーション基盤の充実の具体例とそのことが及ぼす影響を考察する。

3 学生へのサポート

入学してきた学生に対しては学生生活におけるきめ細かな支援が欠かせない。きめ細かな支援のためには、入学時から卒業するまでの各個人の行動（単位履修状況や就職活動等）を記録することが必要である。本講義では記録のためのツールとして①ポータルサイトの構築、②ポートフォリオ作成支援環境の充実という二つの実例を挙げる。

①ポータルサイトの構築

ポータルサイトは大学から学生・教職員へ発信する情報の入り口となる部分である。都留文科大学では大学ホームページより、学内・学外からアクセスできるポータルサイトを設置している。

ポータルサイトのトップ画面では大学および各学科からのお知らせ、WebMail システム、学生向け Web システム (StepPortal)、e-learning システム (WebClass) へのリンクが常時表示されるようになっている。ここで学生、教職員共通に必要な情報を一

覧し、素早くアクセスすることが可能となっている。ポータルサイトに表示される内容は、学生・教職員の学科や身分により異なっている。

また特殊な取り組みとしてムササビ・ライブカメラがある。これは大学近くの巣箱にウェブカメラを設置し、その巣箱に居着いたムササビの親子をインターネット上で観察できるシステムである。ポータルサイトより、ムササビ・ライブカメラへアクセスすると、巣箱の中を見ることができ、観察した内容を掲示板に自由に投稿することができる。投稿した内容は誰でも見ることができ、さらに観察の輪が広がっている。このことにより、環境や生物学を専攻している学生に限らず、他の学生にも小動物への関心を引き起こしており、学科や研究分野を超えた広がりを見せている。

e-learning システムでは、講義ごとのトップページが用意され、ログインすると自分の履修している講義が一覧で表示される。e-learning システムでは、教員と学生、および学生同士がお互いに一つのテーマについてコミュニケーションしあうことにより、テーマに対する新しい発見とより深い理解を得ることができる。現状システムの利用があまり多くないことが課題である。

学生向けの Web システム (StepPortal) では、学習情報の提供を中心に、履修登録や各種申請、お知らせといった学生生活全般での情報提供をおこなっている。

今後の動きとして、今年度中にウェブシステムに対して CMS (Contents Management System) を導入する予定である。CMS 導入により各種ホームページの作成が誰でも容易におこなえるようになる。このことにより、これまでホームページ担当者や担当係に集中していたホームページ作成作業が、それぞれの部署や学生、一般市民などによりおこなえることができる。このことの利点は①情報の発生する現場や当事者がホームページを作ることで、よりの確・正確でリアルタイムなホームページを作成することができる。②ホームページ担当者の異動や退職などがあってもホームページの更新が滞ることがない。③ホームページ担当者の負担を分散することができる。等の利点がある。

CMS の実例として、都留文科大学のウェブサーバには、都留市内の小中学校 10 校のホームページがあり、これらは CMS を利用して各学校にて作成されている。大学では学生ボランティアを中心として、ホームページ作成の支援をしている。CMS を導入することにより、ICT に詳しい教員がいなくなった後もホームページの更新が滞らないようになっている。

このように都留文科大学では、インターネット上にポータルサイトを設置し、そこよりさまざまなシステムをリンクさせることにより、学生と教員、事務局と学生、そして学生同士のコミュニケーション基盤を整備している。

②ポートフォリオ作成支援環境の充実

今後の大きな動きとして、学生ポートフォリオシステムを立ち上げる予定である。ポートフォリオシステムは学生指導に必要となる学生の情報（学籍情報、履修状況、実習系科目や課外活動の状況など）を入学時から蓄積し、学生の入学時からの活動や現在の履修状況などを踏まえて、教職員が適切できめ細かな学生指導をすることができるシステムである。（履修カルテとしている大学もある。）

これまで都留文科大学にて整備してきた学生向け Web システム、e-learning システム、学内のサーバに蓄積された論文や映像情報などの各種データと、それらに関わった学生のデータとを統合することによって、より学生がこれまで学習してきた内容を、指導教員などが詳しく知ることができる。このシステムによって得られた情報は教育実習（教育実践演習）などに利用され、さらにこれらの実習の評価（実習先の小中学校教員、生徒からの評価）を合わせて学生の評価をきめ細かくおこなうことができる。この評価情報は学生の長所、短所をより明らかにし、その後の学生指導や就職活動に生かしていく。

4 総合認証基盤の導入

これまで見てきたように、現在都留文科大学では、学生・教職員がインターネットを介して、情報の交換やコミュニケーションをおこなっている。ここで一つの問題点として「認証の増加」「ユーザ管理の負担」が発生した。各システムにてユーザ管理をおこなっているため、ユーザはシステムごとに ID/パスワードといった認証情報を求められ、システム管理者はユーザ 1 名に対して、システムごとにユーザを作成し、ユーザ情報を管理しなければならなかった。これらは業務の混乱や、システムパフォーマンスの低下、情報セキュリティの低下を招いていた。

この問題を解決するために都留文科大学では総合認証基盤を導入した。他の大学や企業では既に導入実績のあるシステムであるが、各システムでのユーザ認証、ユーザ情報管理を一括で管理することができる認証サーバを学内に設置した。ユーザの認証はポータルサイトに入る時点でおこなわれ、それ以降システム利用に関しての認証作業は必要ないシングルサインオンの環境となっている。

また、認証を一元化することにより、各システムの情報の流れを一括でフィルタリングことができ、迷惑メールやウィルスなどの検出と駆除を徹底することができた。利用者情報が分散しないため、学内全体として情報セキュリティがあがっている。

5 今後の展望

学生がパソコンを所有する率が上がり、パソコンとインターネットを利用した情報提供とコミュニケーション基盤はかなり整備された。このことにより教職員と学生はもとより、教職員同士、学生同士のコミュニケーションが活発化している。最後に今後の展望を述べたいと思う。

今後の展望の大きなテーマとして「コミュニケーションツールとしての携帯電話への期待」がある。ほぼ全ての学生が携帯電話を持ち、一つ一つの携帯電話の機能、特にメールやインターネットなどのネットワーク機能が飛躍的に向上している。また、スマートフォンといった無線 LAN を通じて直接インターネットに接続できる端末も普及しつつある。

これらの背景を踏まえると、これまでパソコン・インターネットからのアクセスを中心に考えてきたシステムであるが、今後はより携帯電話を通じたアクセスに対応していく必要があると考える。携帯電話に対応したアクセスを考える場合には、携帯電話の特性、例えば画面の小ささや携帯電話のキー等に対応したユーザインタフェースが必要であろう。また、一人一人がポータルをカスタマイズして必要な情報のみを表示するパーソナライズ化や、携帯電話によるポータル参照やメール利用が今後の中心になると考えられる。

都留文科大学の情報基盤は、学生・受験生への情報提供サービスからはじまり、多様な出身やバックボーンを持つ学生同士のコミュニケーションや、きめ細かな学生指導といった、大学・地域の情報コミュニケーション基盤として整備され、その重要度はますます増している。